4.子ども食堂ボランティアがもつ現代社会における意義：
西福寺おかげさま食堂運営者調査から

川幡圭輝

第 1 章　はじめに

近年、子ども食堂が大きな広がりを見せている。子ども食堂は地域の有志や、民間、NPO 団体などが中心となって運営され、孤食や経済的に厳しい様々な事情を抱えた子どもたちに無料、もしくは安価で食事を提供しており、つながりの居場所となっている。名古屋市内の子ども食堂の数も 2019 年 1 月現在、50 ヶ所に上っており、子ども食堂ブームになっている。

しかし、子ども食堂の数が増える一方で、その活動を支えていくボランティアスタッフも必要になってくる。ボランティア行動は経済的な利益を目的とせず、義務や強制に基づかないで、他社や集団のために自らの労力や時間を提供する行為である。

現在、運営側の状況はどうなっているのだろうか。農林水産省の調査データでボランティアスタッフの平均人数は約 9 人となっている。そして、常にスタッフが足りない子ども食堂は 13.9%、足りない回がある食堂は 28.1%であることが判明した。4 割以上の子ども食堂がスタッフの数に悩みを抱えていることが分かった。スタッフの数が足りないことで、参加者の方々に満足してもらえないことや、スタッフ 1 人あたりの負担が大きくなってしまう。またボランティアに行ってみたい人や手伝いをしてみたいと思う人はいるが、なかなか行動に移すのが難しいのかもしれない。

本調査では、2018 年 10 月から 12 月にかけて、愛知県内及び名古屋市内の子ども食堂の運営者と大人の利用者、子どもの利用者に分けてアンケート調査を行った。その中から、運営者調査のボランティアスタッフに関する項目を選択し、他の子ども食堂との比較をする。さらに実際に子ども食堂に参加した 5 つの子ども食堂の体験を踏まえて、今後のボランティアスタッフの安定的な確保への具体的な解決策とボランティアに参加してみたいと迷っている人や子ども食堂についてまだよく知っていない人に興味を示してもらい、利他的な行動を引き立たせたい。また、実際に子ども食堂のボランティアに参加しているスタッフの声をまとめ、子ども食堂ボランティアがもつ現代社会における意義を述べていく。

本稿は、名古屋市内における子ども食堂のボランティアスタッフの人数とスタッフの確保に対しての悩みについて調査し、今後どのようにしてボランティアスタッフを安定的に確保することが必要になってくるか、運営者アンケート調査の「スタッフの募集方法」、「参加者の人数」、「スタッフの人数」、「スタッフの数は足りているのか」の項目を利用し、愛知県内及び名古屋市内の他の子ども食堂と比較する。

ボランティア活動率(日本のボランティアの現状)

2011 年に総務省統計局が実施した「社会生活基本調査」によると、年に 1 回以上、ボランティア活動を行っている人の割合は 26.3%であった。約 4 人に 1 人がボランティアに参加していた。しかし、国際的に比較すると、1 番高いのはアメリカで 41.9%であった。日本は中程度であり、決して低いわけではないが、とりわけ高いわけではないことが判明した。

第 1 節　目的

本報告では、「西福寺おかげさま食堂」を中心に考える。2017 年 10 月から「西福寺おかげさま食堂」にボランティアとして参加しているが、当初から、ボランティアスタッフは少なく、運営をするのに精一杯で、レクリエーションや子どもの安全にまで手が回らない状態が続いている。参加者は幼稚園内の回覧によって平均 100 人以上になるが、ボランティアスタッフ(特に学生スタッフ)は平均して 15 人から 30 人、大学生のスタッフも 5 人から 10 人ほどである。農林水産省とのデータと比較すると、ボランティアスタッフは不足していないようにも見えるが、お寺での子ども食堂は敷地面積も広く規模も大きいため、多くのボランティアスタッフを必要とする。さらに西福寺と隣接して幼稚園がある影響で、毎回多くの幼稚園児と母親が参加する。こどもがお寺を走りまわり、園内の遊具で夜遅くまで遊んでいることで、子どもたちの安全性も問題になっている。レクリエーションを行っているときは大人しく集中しているが、レクリエーションにスタッフが足りないことが多い。今回行った「西福寺おかげさま食堂」の運営者調査によると、スタッフの確保や参加者の安全性が課題の一つとして挙げられていた。「西福寺おかげさま食堂」へ継続的にスタッフが来てもらえるために、調査結果や実際に参加した他の子ども食堂の取り組みをヒントにして解決策を立てる。

第 2 節　西福寺おかげさま食堂の設立背景・活動内容

設立背景

現代社会には、実に様々な問題が存在していると考えられるが、その一つとして、人間同士の関係性が希薄になっていることに対して、強い問題意識を持っている。近年では、全国的に核家族や高齢者の独り住まいなどの単身世帯が増加しており、身近な人たちとのつながりすら薄くなっていることが危惧されている。西福寺を取り巻く地域においても、以前は当たり前のようにあった「おかげさま」や「おたがいさま」の関係が、徐々に失われつつあると感じる。まず、地域の中で日々顔を合わせ、お互いのことを安心して話せるような関係性が作られていないため、それぞれの家庭や地域に起こっている問題に気づくことが難しくなっている。また、気づいたとしても「お節介ではないだろうか？」とためらい、その気がかりを気軽に相談できる人や場も持たないため、結果として、些細なことすら助け合うことが難しい状況が生まれている。このような、人と人との関わりの貧しさが、一人ひとりの心の貧しさや、様々な社会問題を生み出していると考えられる現状に、強い寂しさと危機感を感じている。そこで、「西福寺おかげさま食堂」開設のための活動を始めることとした。数多くの人が集うことのできる『お寺』という空間で、『食』を中心としながら、そこに集う誰もが、お互いの存在を認め、一人ひとりがもつ様々な違い（例えば、年齢、性別、人種、宗教、社会的背景や役割、嗜好など）を気にすることなく、安心して集うことができるような場づくりのお手伝いをしていきたいと考えている。

活動内容

活動は、まず月に 1 回程度、定期的に、家庭的で健康的な食事を提供することから始める。参加費として、参加者から大人 300 円、こども 100 円程度をいただくとともに、活動開始時から募金等を募り、運営資金と資材の確保を行う。将来的には、こどもに対する無料の食事提供と、より開催頻度を増やした定期的な開催を目指す。

広報活動は、西福寺周辺の住人を中心に、参加者の範囲を特に限定することなく、誰でも気軽に参加できる場を目指しながら行う。このことによって、多様な人々が共に集い、食を楽しめる場作りを実現していく。活動時は、参加者の一人ひとりが安心していられる場を提供することに重点をおきながらも参加者から垣間見えるサインは見逃すことなく、必要に応じて、その場での声がけや、しかるべき関係機関（民生委員、社会福祉協議会、児童相談所やその他行政機関、NPO 団体など）と連携がとれるような体制を構築している。

第 2 章　調査方法

調査対象は愛知県内及び名古屋市内の子ども食堂の運営者と子ども食堂を利用する子どもと大人である。運営者は 24 件、子どもは 171 件、大人は 102 件から回答を得ることができた。そして調査を行った愛知県内及び名古屋市内の子ども食堂 24 件の運営者データの中で、ボランティアスタッフに関する項目を選択した。以下の 5 つの項目を利用して集計を取った。

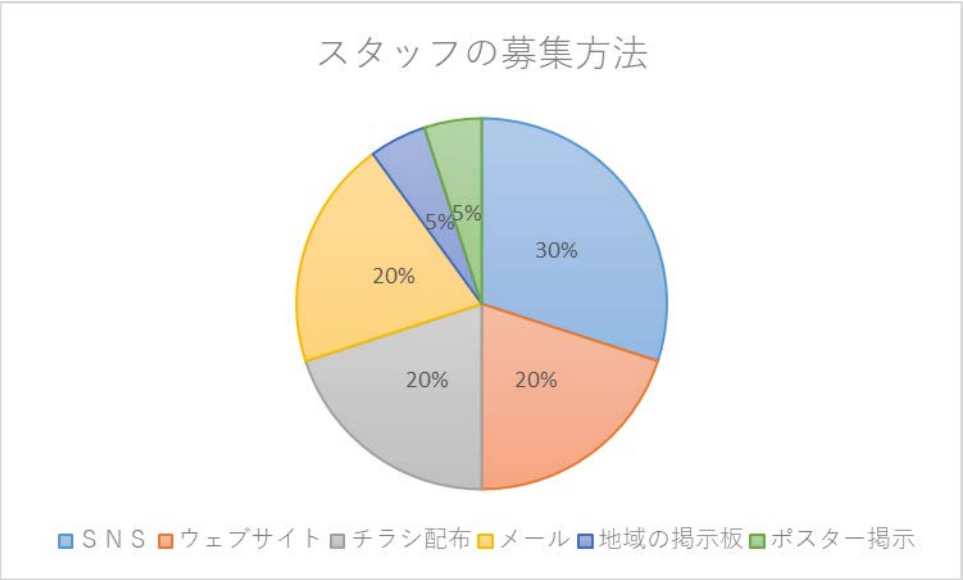
（運営者）

・子ども食堂を運営するスタッフの募集方法(24 件)
・これまでの 1 回あたりの参加人数(スタッフを除く)の平均(23 件)
・これまでの 1 回あたりのスタッフの平均人数(24 件)
・運営にあたり、スタッフの数は足りているか(24 件)
・子ども食堂の運営に連携している機関・団体および個人(24 件)

第 3 章　調査結果

今回の調査の集計結果をもとにグラフを作成した。

（表 1）子ども食堂を運営するスタッフの募集方法



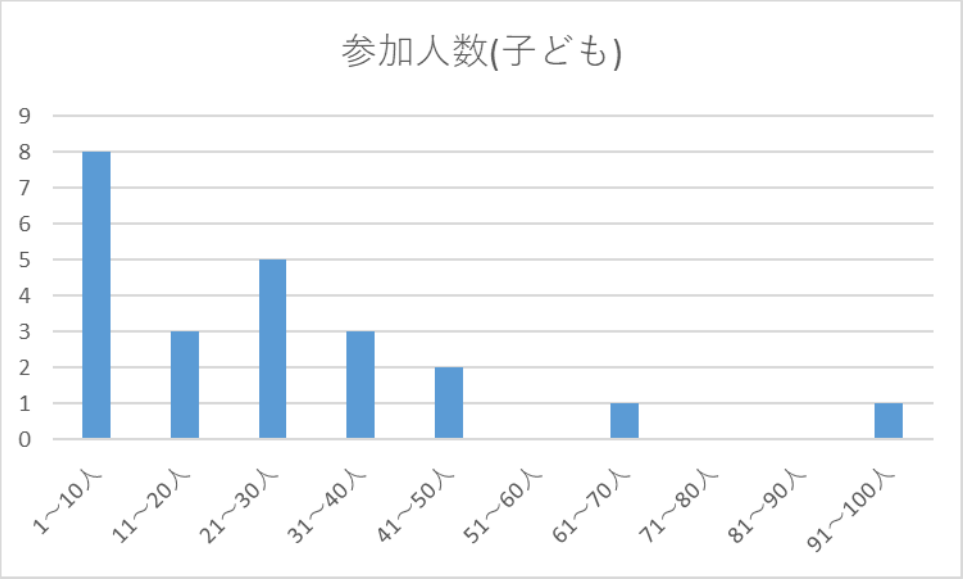
◎その他…口コミ、声かけ、社会福祉協議会、民生委員

「西福寺おかげさま食堂」…「SNS」「メール」

スタッフの募集方法は各子ども食堂でばらつきがあったが、1 番多かったのはＳＮＳであ

った。多くの子ども食堂で Facebook を利用しており、興味を持った方が連絡を行うようになっている。他にもウェブサイトやチラシ配布やメールも多かった。しかし、地域の掲示板やポスター掲示をしていると答えた子ども食堂は少なかった。実際にこれらを利用している子ども食堂を知っており、スタッフも集まっているため、利用するべきであると考える。また、その他の項目で口コミや声かけと答えた子ども食堂も多く、この項目については今後もっと詳しく調査をする必要がある。

（表 2）これまでの 1 回あたりの子どもの参加人数(スタッフを除く)の平均

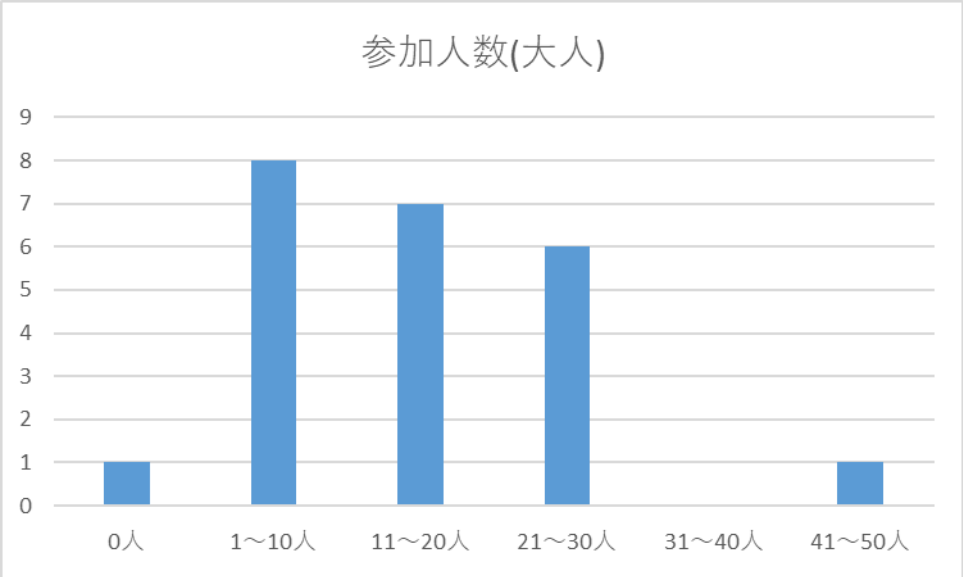


平均人数…27.7 人

西福寺おかげさま食堂」…「41～50 人」

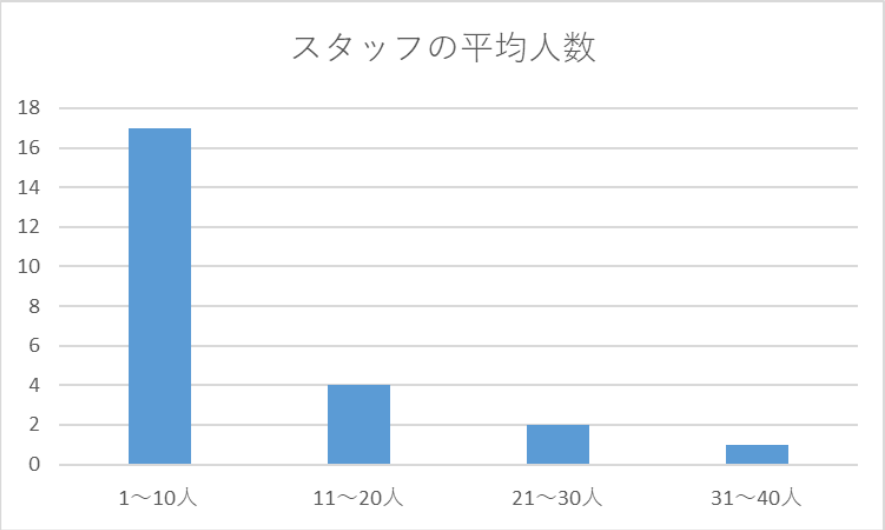
西福寺おかげさま食堂は調査を行った子ども食堂の中で 3 番目に子どもの利用者が多かった。7 割の子ども食堂が約 10～30 人となっている一方で、90 人以上の子ども食堂も存在することが判明した。

（表 3）これまでの 1 回あたりの大人の参加人数(スタッフを除く)の平均



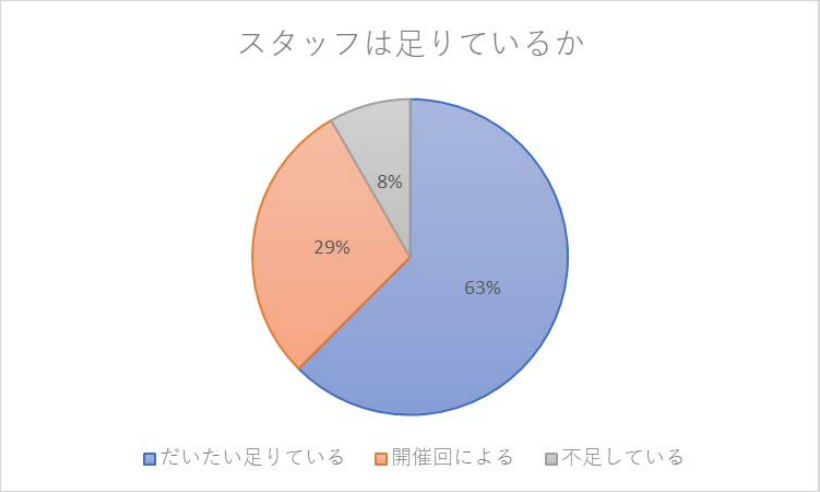
平均人数…16.7 人
「西福寺おかげさま食堂」…「41～50 人」
　西福寺おかげさま食堂は他の子ども食堂と比較して大人の利用者が 1 番で、大人の利用者もとても多いことが分かった。また、全体をみると 7 割が 20 人以下であり、比較的大人の利用者は少ないことが判明した。

（表 4）これまでの 1 回あたりのスタッフの平均人数



平均人数…10.5 人
「西福寺おかげさま食堂」…「21～30 人」
　ボランティアスタッフの平均人数は、7 割以上が 1～10 人となっている。農林水産省の調査によっても平均 9 人であったため、だいたいの子ども食堂が平均的である。しかし、なかには 5, 6 人のスタッフで運営している小規模でない子ども食堂も存在することが判明した。

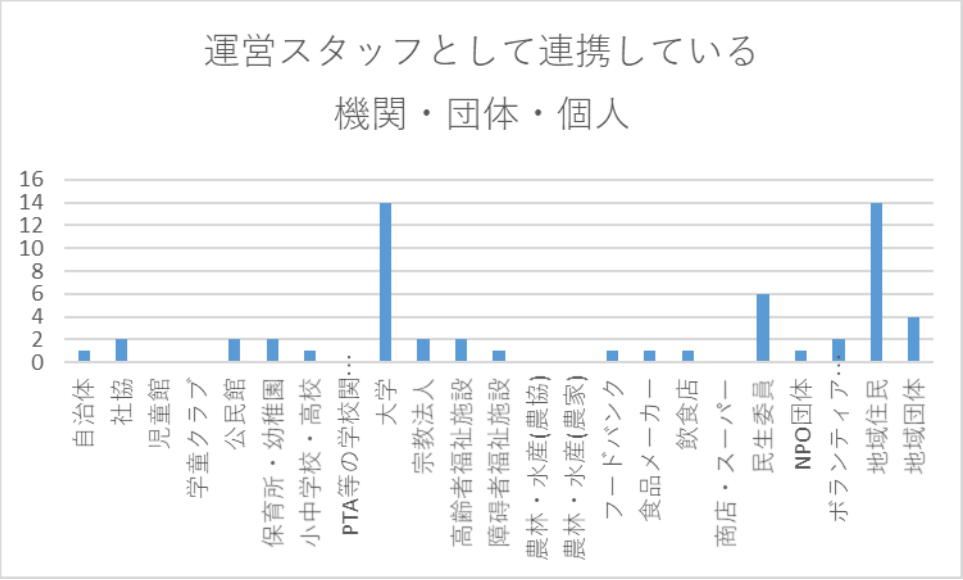
（表 5）運営にあたり、スタッフの数は足りているか



「西福寺おかげさま食堂」…「開催回による」

スタッフの数は、6 割以上の子ども食堂が「だいたい足りている」と回答していた。しかし、約 3 割の子ども食堂が「開催回による」と回答しており、約 1 割の子ども食堂が「不足している」に回答をしていた。農林水産省の調査では 4 割以上の子ども食堂がボランティアスタッフの数に悩みがあったように、愛知県内及び名古屋市内の子ども食堂とほぼ同じ結果になった。

（表 6）運営スタッフとして連携している機関・団体・個人



運営スタッフとして連携をしているのは、地域住民と大学の繋がりが半数以上で圧倒的に多かった。各子ども食堂で特徴がそれぞれあるため、様々な機関や団体・個人が運営スタッフとして連携していることが読み取れた。

5 つの運営者調査の結果から、西福寺おかげさま食堂は愛知県内及び名古屋市内の子ども食堂の中でも大規模であることが分かった。スタッフの数も他の子ども食堂と比較しても多かった。しかし、他の大規模な子ども食堂と違って、スタッフの数が足りない回があることが判明した。

次に、今回調査を比較した 5 つの子ども食堂(西福寺おかげさま食堂、平田寺子ども食堂、わいわい子ども食堂、ちくさこども食堂、マンナ子ども食堂)のボランティアに参加した実際の体験について述べていく。

<u>西福寺おかげさま食堂</u>　参加回数 13 回

・代表　愛知洸さん

・参加日時　2018 年 12 月 14 日(金)　17：00～19：00 (ボランティア 14：00～21：00)

・参加人数　115 人、ボランティア約 20 人

・全体の流れ

14：00～　準備・会場セッティング

16：00～　受付開始

17：00～　おかげさま食堂開店
19：00～　おかげさま食堂閉店
20：00～　反省会
21：00～　解散
・会場の詳細
お寺の本堂でレクリエーション、食事会場の部屋は２つ、キッチンはその部屋をつなぐ間にある。その通路及びキッチンはボランティアスタッフ以外通行禁止になっており、利用者は別のルートを使用するようになっている。
・ボランティアスタッフの役割
受付、案内、フロア、レク、調理
・レクリエーション
◎折り紙、手品、割り箸鉄砲、クイズなど
・ボランティアとして気づいたこと
お寺での子ども食堂は規模が大きく利用者も多いため、運営におけるスタッフの数が多くなければならない。ワンフロアで運営の可能な「わいわい子ども食堂」や「マンナ子ども食堂」のようには会場の作り上、不可能である。他の子ども食堂と違って、会場までを案内するスタッフが必要であるため役割が多くなることも影響しているのかもしれない。また、駅から西福寺までが距離があり、公共交通機関ではバスを使う必要がある。そのためボランティアスタッフが気軽に参加するには至らない点になっている。そして、金曜の夜に開催のため利用者は多いが、ボランティアは集まりにくいのかもしれない。

<u>平田寺子ども食堂</u>　参加回数 1 回
・代表　長谷川裕美子さん
・参加日時　2017 年 6 月 11 日(日)　12：00～14：00　(ボランティア 9：30～)
・参加人数　こども 17 人、大人 19 人、ボランティア約 15 人
・全体の流れ
9：30～　準備・調理
12：00～　子ども食堂開店
13：00～　食事
14：00～　解散
・会場の詳細
食事会場は 1 つ。大部屋で大きな机が 4 つほどある。
キッチンは食事会場と隣同士のため、大皿料理以外は自分で配膳している。
・ボランティアスタッフの役割
受付、調理
・レクリエーション
◎体操教室
・ボランティアとして気づいたこと
平田寺子ども食堂は子ども食堂が普及する前から流しそうめんなど似たようなことをしており、緩いつながりを形成している。大人数が参加するわけではないため、長くなること

はない。また小さい子が多く保護者も子どもについているため、安全も確保されている。

わいわい子ども食堂　参加回数 2 回
・代表　杉崎伊津子さん
・参加日時　2017 年 11 月 1 日(水)　17：00～19：00(ボランティア 15：00～20：00)
・参加人数　こども 82 人、大人 28 人、ボランティア 33 人
・全体の流れ
　15：00～　会場準備
　16：00～　子どもたちと折り紙（柿と栗）
　17：00～　子ども食堂スタート
　19：00～　終了、交流会、反省会
　20：00～　解散
・会場の詳細
　北医療生協ワイワイルームは仕切りのない大きな空間になっている。料理を順番に取っていけるようになっており、スムーズに運営が行える造りになっている。
・ボランティアスタッフの役割
　受付、会場整理、調理、見守り
・レクリエーション
　◎食事前の工作会
・ボランティアとして気づいたこと
　わいわい子ども食堂はご飯までの時間は工作会をしているが、自由にカードゲームなどをして遊んでいる子もいる。ご飯になると順番にご飯をよそってもらい、席について食事をしている。一度で全員が食事を行えるため、長くなることがない。5 つの子ども食堂の中でわいわい子ども食堂がいちばんスムーズに運営することが出来ている気がした。

ちくさこども食堂　参加回数 8 回
・代表　加藤三重子さん
・参加日時　2017 年 4 月 23 日(日) 17：00～19：00 (ボランティア 15：00～20：00)
・参加人数　こども 32 人、大人 48 人、ボランティア 23 人
・全体の流れ
　15：00～　お菓子の袋詰め、調理、次回のポスターの色塗り
　16：30～　ミーティング
　17：00～　来店
　19：00～　終了、交流会、反省会
・会場の詳細
　カウンター数席とテーブル席３つほどで、キッチンはカウンター席と対面している。
・ボランティアスタッフの役割
　受付、調理、配膳、安全
・レクリエーション
　◎普段はなし

◎お菓子釣りゲーム(さくらまつり)、クリスマスの催し物
・ボランティアとして気づいたこと
ちくさこども食堂は地下鉄東山線池下駅から徒歩 1 分ということもあり、運営スタッフが参加しやすくなっている。またスタッフの募集方法で地域の掲示板とポスター掲示を利用しているため、多くの地域住民がスタッフとして参加している。毎月お店の前で先月の子ども食堂の集計と来月の案内も行っている。同時にスタッフも常に募集しているため初めて参加するスタッフが掲示板を見たという方も少なくない。開催日も日曜日の昼のため地域住民が参加しやすいのかもしれない。

マンナ子ども食堂　参加回数 1 回
・代表　藤田恵子さん
・参加日時　2019 年 1 月 23 日(水) 17：30～19：30
・参加人数　こども 31 人、大人 19 人、ボランティア 21 人
・全体の流れ
17：30～　来店
19：30～　終了
20：00～　解散
・会場の詳細
わいわい子ども食堂とよく似ている。入ったすぐに受付があり、進んでいくと食事会場の机がある。その隣で食事をよそってもらう。食事が終わった子からそのまた奥のレクリエーションスペースで遊んでいる。
・ボランティアスタッフの役割
調理、盛り付け、レク
・レクリエーション
◎ぬりえ、かるた、トランプ、パズル、折り紙、お絵かき
・ボランティアとして気づいたこと
この日は普段より参加人数が少なかったが、普段からスムーズに運営を行うことが出来ている。利用者は自分たちで片づけをしており、スムーズである。
開催時間も 17:30 から 19:30 までと比較的短いことも効率よく運営が出来ている気がした。わいわい子ども食堂と同様に問題なく運営が行えている。

実際の体験を次のように表にまとめた。
（表 7）

	西福寺	平田寺	わいわい	ちくさ	マンナ
開催場所	寺院	寺院	コミュニティスペース	飲食店	教会
開催日	毎月第 2 金曜夜	1 月、8 月を除く毎月第 2 日曜日　昼	毎月第 1 水曜夜	月 1 回(日曜日)　昼	毎月第 4 水曜夜

初回開催	2017 年 10 月	2016 年 2 月	2015 年 8 月	2015 年 12 月	2017 年 1 月
最寄り駅	地下鉄荒畑駅から徒歩 15 分	名鉄西春駅から徒歩 10 分	地下鉄上飯田駅から徒歩 4 分	地下鉄池下駅から徒歩 1 分	地下鉄・名鉄上小田井駅から徒歩 1 分
参加者	約 100 人	約 40 人	約 150 人	約 60～80 人	約 75 人
参加費	子ども 100 円 大人 300 円	子ども 無料 大人 ドネーション	子ども 無料 大人 300 円	子ども 無料 大人 300 円	子ども 無料 大人 300 円
ボランティア	約 25 人	約 6 人	約 30～40 人	約 20 人	約 25 人
スタッフ募集方法	・ＳＮＳ ・メール	・友人、知人を通じての口コミ	・ＳＮＳ	・地域の掲示板 ・ポスター掲示	・口コミ
特徴	村雲幼稚園と隣接している。南山大の学生が主導になっている。	食事会場とキッチンが隣同士になっている。	参加者は多いがスタッフも多い。ワンルームで可能。	駅からすぐ近いためスタッフも参加しやすい。	ワンルームでの活動が可能。駅から近い。

子ども食堂ボランティアの利点(学生)

子ども食堂は近年大きな広がりを見せているため、子ども食堂という言葉自体は聞いたことのある人は多くいるはずである。ボランティアへの参加も様々な大学で行われるようになっている。ボランティア行動とは経済的な利益を目的とせず、義務や強制に基づかないで、他社や集団のために自らの労力や時間を提供する行為であったが、利他的行動に利点は何かあるのだろうか。この調査は、昨年から継続して参加している西福寺おかげさま食堂の学生スタッフ 2 名に「ボランティアを始めたきっかけ」「継続できている理由」「スタッフが増えていくには」の 3 点についてインタビューを行った。この 2 名のスタッフは大学のゼミ活動としての参加ではなく、友達同士の繋がりによって参加している。以下でインタビューの結果を確認する。

（表 8）　学生ボランティアの実際の声

	スタッフＡ(大学 3 年)	スタッフＢ(大学 2 年)
ボランティアを始めた理由	子どもに関する何か継続的なボランティアをしたいと思ったため。	ちょうど部活をやめたばかりで何かを始めたいと思っていた。1 年生の頃からボランティアに参加してみたかった。また就活で話す材料にしたいと思った。

継続できている理由	普段子どもと関わることがあまりなく、子どもと関われるのが楽しい。スタッフがみんな親切であったこと。学生が多いから。	子ども食堂のみんなが優しかったから。特に学生スタッフは年下なのに仲良くしてもらえた。
スタッフが増えていくには	大学でのチラシ配り・広報	子ども食堂の認知はあると思うため、興味のある友達を誘ってみる。

まず、ボランティアを始めたきっかけだが、共通点は 2 人ともボランティアに参加してみたいと思っていたところである。また就活で話せる内容になることも大きな強みである。名古屋市内の子ども食堂を支援する企業が増えており、子ども食堂は興味を示してもらえる活動になっている。次に、継続している理由はボランティアスタッフが親切であったという点で共通していた。自身の体験と比較すると、初めは不安であったが周りの方が優しく自分の居場所があったことが継続につながっている点で同じであった。他大学の学生とボランティアを通じて交流が出来るのも良いことだが、大人の方とも話すことが出来るため、普段そういった繋がりが希薄になっている学生には貴重な時間になるはずである。また、子どもは年の近い学生スタッフと一緒に遊びたがったり、話したがるため、学生ボランティアはとても需要がある。他社や集団のために自らの労力や時間を提供することは、面倒に感じたりするマイナスな要素もあるが、プラスに働く面の方が多い。利他を実践する人々がそれぞれ生きる場所で少しずつ次世代の社会化に寄与することで共助社会が生まれていく。こういったことから、子ども食堂ボランティアには大きな可能性があり、確かな未来があると考える。

第 4 章　結論・おわりに

ボランティア行動を生みだすには

本稿では開催場所などに共通点のある子ども食堂や、比較的大規模、中規模の子ども食堂との違いをボランティアスタッフの観点から調査をしてきたが、本章ではそれらに対する結論をまとめていく。以下の 3 点がボランティア行動を生みだすと考える。

①SNS の活用と口コミの広がり

子ども食堂ごとに Facebook は利用しているが、普段から何らかのボランティア活動に参加している人や、大学でボランティア論などの講義を受けている学生は連絡を取って参加している。中京大学においても昨年、ボランティア論の講義を受講した学生が愛知県内及び名古屋市内の子ども食堂にボランティアとして数多く参加していた。

こういった学生が体験を通してさらに関心が高まったり、友達などに広めていくことで、利他の行動を醸成していくことが可能になっていく。自身の体験を基にすると、西福寺おかげさま食堂において 2018 年の 5 月ごろから、友達の繋がりが多くなった。理由は、ボランティアのことを Instagram にアップしていたところ、参加してみたいと言ってくれるひとがいたからである。その友達は現在も活動に携わっており、スタッフの主力になっている。さらにその友達がまた別の友達を誘ってくるようになった。こういった利他的行動の広がり

がとても重要である。
②地域の掲示板、ポスター掲示の活用
　運営者調査のスタッフの募集方法において、地域の掲示板やポスター掲示が少なかったが、これらを活用してみたい。ちくさこども食堂では毎月、お店の前に先月の活動報告や次回のポスターを貼っている。それを Facebook でも投稿しているため、地域住民の方々や、多くのボランティアスタッフが興味を示している。西福寺おかげさま食堂は同じようにはいかないかもしれないが、詳細を報告することでボランティアへの関心が高まるかもしれない。また、西福寺おかげさま食堂は多世代間の交流を目的とし、誰もが安心して集まれる場所を目指している。地域の掲示板やポスターを活用して単身世帯の方にも利用してもらいたい。
③あいち子ども食堂ネットワークの活用
　2017 年 6 月に「あいち子ども食堂ネットワーク」が創立された。「あいち子ども食堂ネットワーク」は運営者らの学習交流会を通じて、子ども食堂の輪を広げ、学校・地域・行政・企業などに広報や連携を行うための目的がある。そんな「あいち子ども食堂ネットワーク」がボランティアスタッフの輪も広げられる担い手になっていくべきである。「子ども食堂カレンダー」を作り、参加者にもボランティアにもわかりやすいシステムを作ることができれば、多くの方に認知され、参加者もほかの子ども食堂に参加してみたいと思えるようになるかもしれない。

今後の課題
　今回調査を行ったのは運営の代表者や、利用者の子どもと大人であったが、今後はボランティアスタッフに焦点を当てて調査を行いたい。ボランティアの多い子ども食堂の特徴や継続してボランティアに参加する人の特徴を調査し、子ども食堂のボランティアリクルートネットワークを比較してみる。そして誰がなぜ子ども食堂のボランティアになるのか、環境、資源、宗教などから改めて調査を行ってみる。さらに大規模なボランティアスタッフの調査を行えば、新たにボランティアに参加してみたいと考えている人が、行動に移しやすくなる動機づけになる可能性がある。また県外の子ども食堂にも足を運び、活用できるようなシステムを見つけ出してみたい。子ども食堂ボランティアがもつ現代社会における意義を見出し、今後の愛知県内及び名古屋市内の子ども食堂の発展に貢献していく必要があるだろう。

参考文献・資料
・西福寺おかげさま食堂設立趣意書
・三谷はるよ,2016,「ボランティアを生みだすもの」
・飯沼直樹,2018,「地域で愛される子ども食堂つくり方・続け方」
・あいち子ども食堂ネットワーク　https://aichi-children-dining-network.jimdo.com
・農林水産省 2018,「子ども食堂と地域が連携して進める食育活動事例集」地域との連携で食育の環が広まっています　http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/kodomosyokudo.html